

令和6年ふるさと亀岡まちづくり応援交付金 登録申請団体一覧表

開始年	申請団体名	代表者名	申請事業名	登録希望期間	事業目的・概要	令和8年度 事業費（円）	初年度寄附 目標額（円）
R7	くらしゴトLabo	代表 多胡 麻衣	コンポストで地域と資源の 循環計画	令和7年～ 令和9年	（目的） 環境や食・農に対する人々の関心が高まり、世代の違う人がつながることを目的とし、日々の暮らしが心豊かになるようなワークショップを開催。 （事業概要） ① 食農ワークショップ 畑での収穫体験とその食材で作って食べるWSの開催 ② コンポストワークショップ 自分たちでコンポストを作って学ぶWSの開催 ③ クラフトワークショップ 畑で育てた糸瓜やコキアなどで箸やスポンジを作るWSの開催	73,500	30,000
R7	一般社団法人 育ちとつながりの家ちとせ	代表理事 石田 千穂	不登校・引きこもり・発達障害等の 困りのある子及びその兄弟たちへの 支援活動の充実とその社会啓発	令和7年～ 令和9年	（目的） ①生きづらさを抱える人（不登校・引きこもり・発達障害等の困り）に対して、社会で生きて行けるようにするための生活に必要なスキル、コミュニケーションスキル、周囲と関わり合うスキル等を地道に積み上げていく必要があり、それを社会に周知すること。 ②生きづらさを抱える人が家族に居ることで、家族全体が疲弊してしまうこと、また兄弟たちに目を向けるような状態にはなりづらいことを社会に周知こと、また直接関わり合い彼らのニーズを満たす支援を実施することで家族全体をサポートすること。 （事業概要） ① スクールに毎日通っている子どもたちに対し、予算を増やし支援者を増員することで大切な支援機会を掴み取ってもらい、日中活動にて今必要な支援関わりや環境設定を享受してもらい成長を促す事業とする。また、この事業の対象者を含む利用者全員の状態や支援実践前後での家庭内の生活状況変化を半年ごとに調査し有効性を示す。また、その結果を基にHPやSNS記事としてあげ、効果的な広報を打ち社会啓発につなげる。 ② 寄付を利用してスタッフが兄弟たちと関わり合う環境を作り、保護者と共に彼らのニーズを満たせる状況を創り上げながら、彼らが尊厳を保ち生きていくことを保障する事業とする。	439,000	600,000
R7	特定非営利活動法人 プロジェクト保津川	代表理事 原田 禎夫	美しい保津川を未来へ～保津川クリーン 作戦	令和7年～ 令和9年	（目的） 本事業では、毎月第3日曜日を中心に実施している保津川クリーン作戦の取り組みを強化し、保津川の環境問題に関心を持つ人々が集う機会を提供し、支流や上流地域へと清掃活動の輪を広げていくことをめざす。 （事業概要） 毎月第3日曜日に「保津川クリーン作戦」として清掃活動を実施するとともに、参加者とともに「水辺のごみ見つけ！」（全国水辺のごみ調査）を実施し、河川ごみの定量的な調査を実施する。得られた成果は、全国川ごみネットワークを通じて、全国の河川ごみの実態把握に役立てるとともに、参加者にもウェブサイト等を通じてデータをフィードバックすることで、河川ごみについて考える機会を提供する。 「環境教室」は、夏季（7月ごろ）に「まるごと川遊び」を、冬季（2月ごろ）に「ジビエパーティー」を開催する。これらの事業では、清掃活動だけでは保津川の環境問題を訴求しにくい、小さな子供のいる家庭などを対象として実施し、山や川の恵みなど亀岡の自然の豊かさを実感することを通じて、環境保全の重要性を考える機会とし、環境問題への関心層の拡大や清掃ボランティアへの参加のきっかけづくりとなることをめざす。 各事業の予告や結果報告は、ウェブサイトのほか各種SNSでも積極的に発信し、関心層の拡大をはかることで、保津川の環境問題に関心を持つ市民の多様な参加を実現する。これらを通じて、コロナ禍で低調になっていた流域の清掃活動の活性化をめざす。 また、これまで実施してきた環境フェスティバルの発展的な取り組みとして、一連の取り組みを「保津川の日」（毎年3月第1日曜日）において展示し、市民の河川ごみに対する関心を高める。	1,292,200	500,000
						1,804,700	1,130,000